

# 宮崎県感染症週報

## ■ 宮崎県第30週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 699 人（定点あたり 22.3）で、前週比 102% とほぼ横ばいであった。

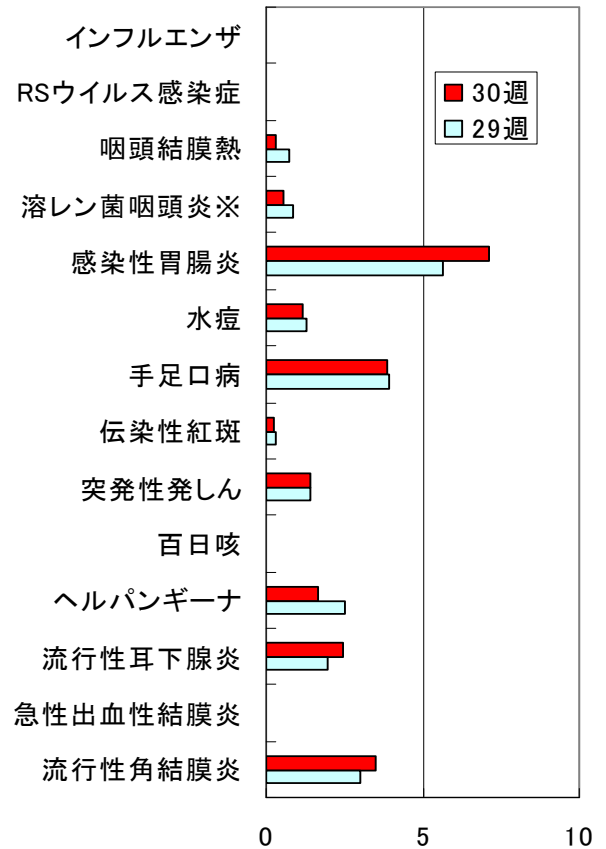
前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

感染性胃腸炎の報告数は 256 人（7.11）で前週比 125% と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（5.8）と比較すると約 1.2 倍である。中央（15.0）、小林（13.3）、日南（10.0）保健所からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月から 3 歳で全体の約半数を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 88 人（2.4）で前週比 124% と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.8）と比較すると約 1.4 倍である。日向（12.3）、延岡（6.8）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 2 歳から 5 歳で全体の約 6 割を占めた。

手足口病の報告数は 139 人（3.9）で前週比 98% とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点あたり平均値（2.4）と比較すると約 1.6 倍である。中央（14.0）、日向（11.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》  
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## □ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
手足口病	5	3.9	中央(14.0)、日向(11.0)	1歳～3歳で全体の約7割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.4	日向(12.3)、延岡(6.8)	2歳～5歳で全体の約6割を占めた。

## ■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 3 例が宮崎市（2 例）、都城（1 例）保健所から報告された。  
 《宮崎市保健所》・80 歳代の男性で肺結核。発熱がみられた。  
 ・50 歳代の男性で肺結核。  
 《都城保健所》・70 歳代の女性で疑似症患者。咳、痰、発熱がみられた。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 3 例が宮崎市・都城・日南（各 1 例）保健所から報告された。  
 《宮崎市保健所》・5 ヶ月の女児で水様性下痢がみられた。原因菌の血清型は 091（VT1 産生）。  
 《都城保健所》・3 歳の女児で水様性下痢、血便、嘔吐、発熱がみられた。原因菌の血清型は 0157（VT 産生）。  
 《日南保健所》・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は 0103（VT1 産生）。
- 4 類感染症： 報告なし。
- 5 類感染症： 梅毒 1 例が宮崎市保健所から報告された。20 歳代の女性で無症状病原体保有者。

## ■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ 細菌（平成 22 年 7 月 19 日～8 月 2 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日
腸管出血性大腸菌(OUT:H18 VT1)	10代後半	女	7.13	腹痛、軟便	便	7.27
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	30代前半	男	7.6	無症状	便	7.30
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT2)	0～4	女	7.23	水様性下痢、血便、嘔吐、発熱	便	8.2
腸管出血性大腸菌(O26:H11)	0～4	女	7.26	下痢、嘔吐	便	7.30
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m;-)	20代前半	男	7.27		便	8.2
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	5～9	男	7.27		便	8.2

□ ウイルス（平成 22 年 7 月 21 日～8 月 2 日までに分離同定）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
エコーウイルス3型	3	男	7.7	腸炎・気管支炎、39.0℃、気管支炎、下痢	鼻汁	8.2
エコーウイルス3型	3	男	7.7	腸炎・気管支炎、39.1℃、気管支炎、下痢	便	8.2
エコーウイルス25型	1	女	7.7	複雑性熱性けいれん、発熱、上・下気道炎、胃腸炎	咽頭ぬぐい液	8.2
ノロウイルスGⅡ型	1	男	7.21	急性腸炎、37.7℃、胃腸炎(下痢・吐気・嘔吐)	便	7.22

- 腸炎・気管支炎の小児からエコーウイルス3型、熱性けいれんの小児からエコーウイルス25型が検出された。  
 エコーウイルス3型は7月から、エコーウイルス25型は6月から検出され始め、いずれも髄膜炎から検出されている。
- 急性腸炎の小児からノロウイルスGⅡ型が検出された。

## ■ 全国第 29 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 17.0 で、前週比 82%と減少した。今週増加した主な疾患はなかった。減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

ヘルパンギーナの報告数は 15,275 人 (5.0) で、前週比 77%と減少した。宮城県 (10.6)、山形県 (9.7)、新潟県 (9.3) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

手足口病の報告数は 10,706 人 (3.5) で、前週比 90%と減少した。新潟県 (10.5)、高知県 (9.4)、福井県 (8.9) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳で全体の約 8 割を占めた。

### □ 全数把握対象疾患

1 類感染症 : 報告なし。

2 類感染症 : 結核 245 例

3 類感染症 : 細菌性赤痢 2 例、腸管出血性大腸菌感染症 97 例、腸チフス 1 例

4 類感染症 : A型肝炎 4 例、デング熱 4 例、日本紅斑熱 2 例、マラリア 2 例、レジオネラ症 27 例

5 類感染症 : アメーバ赤痢 4 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 14 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 6 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例、麻しん 5 例

## 宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第30週(07月26日～08月01日)

疾病名		第29週	第30週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		1				1					
	定点あたり	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数		3	1		2						
	定点あたり	0.00	0.08	0.10	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	27	12	1	1	2	5		2		1	
	定点あたり	0.75	0.33	0.10	0.17	0.50	1.67	0.00	0.50	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	32	19	3	2	5			6		3	
	定点あたり	0.89	0.53	0.30	0.33	1.25	0.00	0.00	1.50	0.00	0.75	0.00
感染性胃腸炎	報告数	204	256	44	51	9	30	40	34	5	28	15
	定点あたり	5.67	7.11	4.40	8.50	2.25	10.00	13.33	8.50	5.00	7.00	15.00
水痘	報告数	46	42	15	5	4	3	3	8	1	3	
	定点あたり	1.28	1.17	1.50	0.83	1.00	1.00	1.00	2.00	1.00	0.75	0.00
手足口病	報告数	142	139	32	18	10	8	3	9	1	44	14
	定点あたり	3.94	3.86	3.20	3.00	2.50	2.67	1.00	2.25	1.00	11.00	14.00
伝染性紅斑	報告数	10	8	2	5	1						
	定点あたり	0.28	0.22	0.20	0.83	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	50	51	13	7	9	6	4	9		1	2
	定点あたり	1.39	1.42	1.30	1.17	2.25	2.00	1.33	2.25	0.00	0.25	2.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	91	59	5	4	18	13	1	3		12	3
	定点あたり	2.53	1.64	0.50	0.67	4.50	4.33	0.33	0.75	0.00	3.00	3.00
流行性耳下腺炎	報告数	71	88	5	4	27		3			49	
	定点あたり	1.97	2.44	0.50	0.67	6.75	0.00	1.00	0.00	0.00	12.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	18	21	15	5	1						
	定点あたり	3.00	3.50	5.00	2.50	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

## ●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第30週)

2類感染症	結核	114例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	28例(3)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	マラリア	2例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例(1)
	破傷風	3例	麻しん	1例		

( )内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

**食中毒を起こさないために。(7月26日～8月1日)**

厳しい暑さが続いています。この時期は、食中毒の発生や腸管出血性大腸菌感染症（O157 等）の感染が心配されます。食中毒はいろいろな原因でおこりますが、夏に多いのは細菌によるものです。

家庭内ではつぎのことに注意し予防しましょう。①調理の前、食事の前、トイレの後、介護や看護の後は石けんで十分に手を洗いましょう。②台所は整理整頓し、まな板やふきんなどの調理器具はきれいに洗い、消毒を行うなどして清潔に保ちましょう。③ハエ、ゴキブリ等は駆除しましょう。④食材は流水で十分に洗い調理しましょう。⑤肉や魚などの生鮮食品はできるだけ早く調理しましょう。⑥調理するときは、食材を十分に加熱しましょう。⑦冷やして食べるものや加熱できないものは食べる直前まで低温（10度以下）で保管しましょう。⑧できあがった料理はなるべく早く食べるようにしましょう。⑨冷蔵庫内の清掃を定期的に行いましょう。

食中毒を防ぐためには、これらのことを日頃から心がけておくことが大切です。

下痢や嘔吐などで脱水症状を起こさないよう注意し、体調が悪いときには無理をせず早めに医療機関を受診しましょう。